令和七年度入学者選抜試験問題

国語

注意

1　解答は、答案用紙の指定欄に記入しなさい。

2　受験番号を答案用紙その一、その二の指定欄に記入しなさい。

3　開始の指示があるまで、問題冊子を開いてはいけません。

4　この問題冊子は、9ページまであります。問題冊子・答案用紙の印刷の不鮮明、ページの落丁・乱丁等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。

5　この問題冊子は、試験終了後持ち帰ってください。

一　次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

私たちは今、人工的な時間を生きている。毎日決まった時間に起き、学校や会社へ行き、同じような時間に帰宅する。それは学校での学習カリキュラムや会社の勤務時間に従っているからで、自然の時間に対する配慮より効率性や生産性が重視されている。でも、生物である人間の心身は、これらの人工的時間に完全に適応しているわけではない。身体の内にも外にも人間以外の生物がいて、私たちの体や心に大きな影響を与えている。たとえば、人間の腸内にいる100兆個を超えるバクテリアは、心身の健康に影響する。季節の移り変わりは動植物の活動を左右し、その働きによって花粉症に悩まされたり、まばゆいばかりの満開の桜に心を動かされたりする。そうした自然の時間の流れに、私たちはいつから距離を置くようになったのだろうか。

それは、①人間が自然の時間を止めて文明を作ったからだと私は思う。生物の世界は同じことを繰り返さない。同じようなことが起こるが、時間の経過とともに主体も状況も常に変化している。しかし、260万年前に登場した石器は同じ動作を繰り返させる機能を持っていた。石器を扱う人が目の前にいなくても、それを使う動作を連想させてくれるからだ。その後、様々な道具が作られ、人間は道具を使うことによって均一な行動をとるようになった。道具は変化する時間を止めて、人間の行為を固定したのだ。

さらに、7万～10万年前に言葉が登場したことで時間の流れが一気に変わった。重さがない言葉はどこにでも持ち運べる。遠くにあって見られないものや、過去に起きて体験できなかったことを、言葉によって知ることができる。言葉は「自ら体験する」時間を止めて、物や出来事を抽象化し再現してくれる。言葉のない時代は日々変わりゆく自然に直観的に対処することにより人間は暮らしていた。しかし、その時間を止めて様々な風景を言葉で描くことにより、私たちは世界観を共有することができた。だから、言葉は多くの人々をつないで社会を拡大し、都市文明を築く礎[a]となった。

絵画や彫刻などの芸術も事物の動きを止めて造形し、新たな境界を引いて世界を創造することに貢献した。音楽は世界の動き

を音に変えて再現し、そこに目に見えない心の状態を埋め込んで新たなリズムを生み出した。②芸術は言葉と共に世界の見方を変える役割を果たしたと言えよう。

だが、③人間はさらに時間を操作し始めた。18世紀から19世紀に起こった産業革命は化石燃料を使った新しいエネルギー源を手に入れ、機械の力による生産工程を始動させた。これまで風や水や火、家畜などの自然の力に頼ってきた考えは一変した。都市にいくつも工場が出現し、労働者が[b]ミッシュウして、都市は巨大になった。生産性と効率性を高めるために、作業工程は時間によって管理されることになった。機械が時間に沿って正確に動かされると、人間もその時間によって管理され始めた。その結果、あらゆることが時間によって企画され、スケジュールに沿って私たちは暮らすようになった。

情報時代を迎えた今、私たちは情報によって未来の時間を先取りするようになった。数カ月先の旅行のスケジュールを事細かに決めて飛行機やホテルを予約する。コンサートやスポーツ大会のチケットを早めに予約し、会議の予定と共にカレンダーに書き込む。私のカレンダーも1年先まで様々な予定で埋め尽くされている。そのための準備をいつも頭に入れておかねばならないから、実は未来を先取りしているようで、逆に未来に現在の時間を奪われているとも言える。科学技術の発達と情報化の時代に自分の自由な時間が増えると思っていたのに、さらに忙しく窮屈になったと感じるのはそのせいではないだろうか。

しかし、先取りしたはずの未来はますます不安定になる様相を示している。大気や海洋の温暖化によって気候変動が[c]顕著になり、想定外の大雨、洪水、干ばつ、森林火災が[d]ヒンパツし、地震や津波もその規模を増している。ロシアのウクライナへの軍事[e]シンコウもハマスとイスラエルの軍事衝突も解決の糸口は見えないままだ。これらの事態によって小麦を始めとする食物の流通が影響を受け、物価は値上がりし続けている。④果たして私たちが操作し、予測したような未来が訪れるのだろうか。

私たちの弱みは、操作できない自然の営みによってもたらされる災害に対処できていないことにある。南海トラフを始めとする大地震が近未来に起こると予測されているのに、危険地域からの移動計画も防災体制も完備しているとは言い難い。自然の時間の流れを無視して人工的な時間を優先すれば、自然の猛威に対処できなくなる。現代の大都市中心の暮らし方は、いずれ大き

な災害や破壊を招くだろう。

そうした危機を防ぐためには、自然の時間に寄り添った暮らしを取りもどす必要がある。無理に予定を詰め込まず、天気を見て日々の行動を決める余裕や、自然の変化に応じて柔軟に予定を組み替える心構えがほしい。都市を離れ、自然の時間に寄り添える場所に身を置く機会をもつべきだ。そして、何より人間以外の生きものに目を向け、彼らの生き方に関心を持つことが、この地球の生物圏を安定に保つうえで重要になると思う。

（山極寿一『朝日新聞』掲載の文章による）

問1　傍線部aからeまでの片仮名を漢字に、漢字を平仮名に直しなさい。

問2　傍線部①「人間が自然の時間を止めて文明を作った」とありますが、その結果、言葉のない時代に人間の世界と生物の世界の間にどのような違いが生じましたか。説明しなさい。

問3　傍線部②「芸術は言葉と共に世界の見方を変える役割を果たした」とありますが、言葉や芸術に共通するどのような性質が「世界の見方を変える」と筆者は考えていますか。説明しなさい。

問4　傍線部③「人間はさらに時間を操作し始めた」とありますが、「産業革命」と「情報時代」は人間にどのような影響をもたらしましたか。共通性を踏まえて答えなさい。

問5　傍線部④「果たして私たちが操作し、予測したような未来が訪れるのだろうか」とありますが、筆者の現状認識と主張はどのようなものですか。まとめなさい。

（このページは白紙です。）

二　次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

中納言顕基は、大納言俊賢の息、後一条の帝に時めかし仕へたまひて、若うより官、位につけて恨みなかりけれど、心はこの世の栄えを好まず、深く仏道を願ひ、菩提を望む思ひのみあり。常のことくさには、かの楽天の詩に、「①古墓何世人。不レ知レ姓与レ名。化為ニ路傍土一。年々春草生レ」といふことを、くちづけたまへり。いといみじきすき人にて、朝夕琵琶をひきつつ、②「罪なくして罪をかうぶりて、配所の月を見ばや」となむ願はれける。

かの後一条かくれましましたりける時、③嘆きたまふさま、ことわりにも過ぎたり。御所のありさま、いつしかあらぬ事になりて、はてには火をだにも灯さざりけるを、尋ねたまひければ、「諸司みな、今の御事をつとむる間に、仕うまつる人なし」と聞こえけるに、いとど世の憂さ思ひ知られて、さるべき人みな帝の御かたへ参りけれど、④「忠臣は二君に仕へず」と言ひて、つひに参らず。御忌みの中のわざなど仕うまつりて、やがて家を出でたまふ。その年ごろの上公達、袖をひかへて別れを悲しみけれど、さらにためらふ心なかりけり。

横川にのぼりて頭おろして籠りたまへりける時、上東門院より問はせたまひたりければ、

⑤世を捨てて宿を出でにし身なれどもなほ恋しきは昔なりけり

とぞ聞こえたまひける。

（『発心集』による）

注　顕基―源顕基。後一条天皇に仕えた後、三十七歳で出家した。　息―息子。　ことくさ―口癖。　楽天―唐の白居易。　くちづけ―口癖にして。　配所―罪を受けて配流された地。　御所―喪中の後一条帝の御所。　あらぬ事になりて―とんでもないことになって。　今の御事―新しい帝へのご奉仕。　御忌みの中のわざ―服喪中のお世話。　上公達―上流貴族の子弟。　横川―比叡山延暦寺横川中堂。　上東門院―藤原彰子。後一条帝の母。

問6　傍線部aを文法的に説明しなさい。

問7　傍線部①の漢詩を顕基が口ずさんでいた理由について、漢詩の内容を明らかにしながら説明しなさい。

問8　傍線部②「罪なくして罪をかうぶりて、配所の月を見ばや」、傍線部③「嘆きたまふさま、ことわりにも過ぎたり」を現代語に訳しなさい。

問9　傍線部④に「「忠臣は二君に仕へず」と言ひて、つひに参らず」とありますが、その代わりに顕基の取った行動を二つあげなさい。

問10　傍線部⑤に「世を捨てて宿を出でにし身なれどもなほ恋しきは昔なりけり」とありますが、この和歌には顕基のどのような心情が歌われていますか。「昔」の指すところを明らかにしながら説明しなさい。

三　次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。なお、設問の都合で、返り点・送り仮名を省略した部分があります。

臼季使、舎於冀野。冀缺耨、其妻饁之、敬相待如賓。従而問之、冀芮之子也。与之帰、既復命而進之曰、臣得賢人、敢以告。文公曰、①其父有罪、可乎。対曰、国之良也、滅其前悪。是故舜之刑也殛鯀、其挙也興禹。今君之所聞也、斉桓公親挙管敬子、其X也。②公曰、子何以知其賢也。対曰、③臣見其不忘敬也。夫敬、徳之恪也。恪於徳以臨事、其何不済。公見之、④使為下軍大夫。

（『国語』晋語による）

注　臼季—人名。春秋時代の晋国に仕えた人。　冀野—冀（山西省河津県の東）の郊外。　冀缺—人名。郤缺のこと。　耨—草を刈ること。　饁—かれいい（農夫が畑で食べる食事。乾飯）を届けること。　賓—客人。丁重に扱わなければならない客。　冀芮—人名。　文公—春秋時代の晋国の君主。春秋五覇の一人。　前悪—過去の罪悪。　舜—中国古代の伝説上の聖天子。　鯀—人名。禹王の父親。　禹—舜の後を受けて夏王朝を開いた聖王。　桓公—春秋時代の斉国の君主。春秋五覇の一人。　管敬子—人名。管仲のこと。　恪—慎重に事をなすこと。　済—成し遂げる。　下軍大夫—晋国の官名。上・中・下軍とあるうち、下軍の将・佐の下に位置する高い官職。

問11　傍線部a「与」、b「親」、c「夫」の読みを、送り仮名も含めてすべて平仮名で記しなさい。

問12　傍線部①「其父有罪、可乎。」をすべて平仮名で書き下し、状況が分かるように人物名を補いながら現代語に訳しなさい。

問13　傍線部②「公曰、子何以知其賢也。」について、状況が分かるように人物名を補いながら現代語に訳しなさい。

問14　傍線部③「臣見其不忘敬也。」は、「しんはそのけいをわすれざるをみるなり。」と書き下します。これに従って返り点と送り仮名を加えなさい。

問15　傍線部④「使為下軍大夫。」について、冀缺はどのような行動が高く評価され、下軍大夫に登用されたのですか。具体的に答えなさい。

問16　X にあてはまる漢字を次の中から一つ選びなさい。

「賢」「族」「子」「賊」「朋」

問 5	問 4	問 3	問 2	問 1	
				d	a
				e	b
					c

受　験　番　号

小　計　1

令和七年度入学者選抜試験答案用紙　国語その二

二

問6	問7	問8		問9		問10
		②	③			

三

問11	問12		問13	問14	問15	問16
a	書き下し（平仮名）	現代語訳		臣見其不忘敬也。		
b						
c						

受験番号

小計 3

小計 2